



昼顔・アンジェラ



Michi

台風9号が首都圏を直撃した夜、待ち合わせ場所として知られる東京駅地下構内の銀の鈴でお客様に会うため、問い合わせやキャンセルでごった返す、JR東まへの人垣をかき分け足を速めた。

翌朝、足の遅い強風はまだ吹き荒れていたが、寢床からカーテン越しに昼顔が10個ほど、楚々と咲いているのが見えた。Good morning, Angela. 外に向かって声を掛ける。

夏の湯水時に、公園の隅で水も貰えないのに楚々と咲く、野生の昼顔を見て以来大好きになってしまった。今咲いている昼顔は、昨秋、近くの畑の垣根に枯れて残っていた種を失敬し、今春、バラダのプランターに植え付けたものだ。

この昼顔がポツポツと双葉を出し始めた頃、講師をしていていたアンジェラのお父様から、彼女の訃報を知らせる電話が自宅に入った。

昨年末から心身のバランスを崩し自宅で静養していたが、春先には仕事に復帰するメールが生徒達に入り始めていた矢先で言葉を失った。

彼女の年齢を超えた魅力は、今回寄せられた追悼集で十分お察しただけだろうと思うので敢て触れない事にする。

彼女と初めて会ったのは、カナダ大使館での留学フェアだった。当時まだ上智大学の大学生だったが、同じ沿線に住んでいる事が分り仕事を手伝ってもらう事がトントン拍子に決まった。

お母様がペルー人のハーフで、高校時代までは肌の色も茶っぽく差別を経験した事、管理教育が合わず高校3年生でカナダに留学した経験者である事などが、私の不登校体質の生徒相手に、留学を転地療法と位置付けた実践のパートナーとして大きな力になっていた。

個性の強い生徒を教える難しさ、個人的な悩みに対するアドバイスに対して、私の息子もハーフである事を知っているアンジェラは、「…分った」と少し鼻にかかったハスキーボイスで、頷いていた姿が記憶に新しく胸が詰まる。

大学卒業後は内閣府の仕事や、愛・地球博のアンデス・アマゾン館・副館長の重要な仕事をこなし、超多忙なスケジュールの合間をぬって講師を続けてくれた。

ご自宅の近くの教会で執り行われたお別れ会に参加するため、駅から少し勾配になった道を歩きながら思った。

「この勾配は頑張り屋のアンジェラの足には、きつかったのだろうか」。

私とのお喋りが終わると仲の良い弟さんに電話し、駅まで迎えに来てくれるよう頼んでいた姿が浮かぶ。

アンジェラを向日葵の様な女性と言う人は多いが、私は昼顔の様な女性と言いたい。内閣府の様な公的な仕事から、塾の講師まで時間が許すかぎりNOと言わず受け入れていたアンジェラ。

東京を直撃した台風9号にも負けず、楚々と咲いている我が家の昼顔に、アンジェラと名付けた。ブルーに少しピンクがかかった花びらに、雨上がりの水滴が残りとでも艶っぽい。もうゆっくり休んで良いよ、アンジェラ。貴方が周りに撒き散らして行った“優しさ”は、関わった子供や大人がしっかりと受け止めている事が確信できるから。



多国籍シンパングの主役たち新開国考 共同通信社編集委員室・編著

◆個性伸ばす教育◆

不登校生徒らのあこがれの視線を集める現代風の「帰国子女」が大学二年の深作阿里咲アンジェラ(二二)だ。カナダの高校へ二年間留学した経験を生かし、国連児童基金(ユニセフ)などの国際会議通訳や、読者リポーターとして米CNNテレビ取材し、雑誌にも掲載される活躍ぶりだ。アンジェラも幼稚園から高校まで、私立の一貫教育を受けながら、強い違和感があった。厳しい規律で「クローンを作るような教育」に不満を募らせた。ペルー人の母親と日本人の父親の間に生まれ、肌はやや浅黒かった。同世代の中で「水に油が浮くような孤立感があった。小学校の休み時間も独りで過ごすことが多く、楽しい思い出はない。「日本人のお母さんが欲しい」と母親に訴え、二人で泣いたことも。高校三年夏に退学、カナダの太平洋沿岸のビクトリア市にある高校へ留学した。現地では日本と反対に「あなたはと思う」と意



見を求められる。教師から「日本人はロボットみたいで、意見を言わない」と批判もされた。しかし「あなたは数学はできないが、美術は上手だ」などと、個性を伸ばそうとする教育は新鮮だった。帰国後、海外体験を生かして、年少の子どもに接している。「カナディアンの子どももそれぞれ個性があつて、みんな好きです。誰かが『あなたはすてきよ』と言ってくると、人はきつと変わるんじゃないかな」。二〇一二年十月下旬、アンジェラの教室では、十三〜十五歳の女生徒四人とテーブルを囲み英語混じりのおしゃべりが弾んでいた。「今(この)英語で言うの」「ナンバは……」。



追悼

追悼記事: 「カナディアン・アカデミー・セタガヤ20周年の集い」司会を担当. Includes photo of Arisa Fukasaku speaking and her name in English and Japanese: ARISA FUKASAKU 深作阿里咲.